



# さよなら 20 世紀。 さよなら イチロー さよなら からす???

第32号

発行所 東京都中野区中央5丁目1番2号西田ビル4階 〒164-0011 からす新聞本社 電話03-3382-5963 ©からす新聞本社  
からすホームページ <http://www.go-karasu.com/> 投書・お問い合わせのE-mail : [colors@go-karasu.com](mailto:colors@go-karasu.com)

二十一世紀がやってくる。二十一世紀、それは私にとつては遠い遠い未来を表わす言葉だったはず。だが、ふと気がついてみると、もうすぐそこまでやってきている。私が生徒たちの年頃だったときには、自分が二十一世紀を迎えることになるだろうとは微塵も思っていなかった。いつの頃からか、好き勝手に生き急いで二十歳で死ぬんだ、幼稚に思い込んでいたのである。いや、そう決めたいた、というべきか。おとなになるといふこと、あるいは、老いる、ということを感じたことだと、拒否していたのかもしれない。怯えていたのかもしれない。あるいは、手相を見てくれた友人の発言が引鉄になったのかもしれない。そんなことを今になつて云々したところで仕方がないし、当時の本当の心境は、もはや私自身にもちっともわからない間の中である。子どもとおとなや老人といった問題について、語るべきことが私の中に山積しているような気がするのだが、それはまたの機会に譲ろう。

兎にも角にも、こんなことを殴り書きしている間にも、一歩ずつ二十一世紀が近づいてきている。二十世紀最後の年だの、ミレニアムだの、世紀末の中の世紀末だのと、世間では何かと喧伝された二〇〇〇年。その前の年はノストラダムスの一九九九年であった。何かにつけて騒ぎたがるのが人の常であると、一言で切つて捨ててしまふことも不可能ではない。けれども、少なくともピタゴラス以来、二千数百年に亘つて、数字はそれなりに特別な意味を持つものだと考えられてきた、という歴史もある。縁起を担ぐのに利用されたり、占いの根拠に使われたり、数字や商業の世界以外でも、数字はなかなか人気があるのである。ふと時計に目をやると七時二十二分だったとしよう。特殊なカラーで有名な和歌山の女性は、あら、私の誕生日の数字だわ、などと思つたりするだろうか。同じような場面で、あなたたちはちよつとした何か因縁めいたものを感じたりはしないだろうか。ぱつと時計を見たら、自分の誕生日だったりすることってよくあるよな。そんな話題で盛り上がる生徒は決して少なくはない。

(最終面に続く)


**今日の紙面から**

- 二面 オープン面
- 松本と話をうんぽんぽん
- 四面 からすライブラリー
- 本 『らんぼく』
- CD 『チューブラー・ベルズ』
- 映画 『キューブ』
- 五頁 国際食文化面
- 忍のベトナムを食い尽くせーその三
- 七頁 芸術面
- レイズ・ギャラリー
- 八頁 語面

これを日本語で言えますか?

**からす新聞は学習塾カラーズが母体となつて、世界に文化と芸術を発信すべく発行している新聞です。**

**誰でも自由に参加できます(無茶じやない範囲で)。**



## 松本と話そう。ピン、ポン、パン

今世紀最大の発明品はテレビだと思う。

このところ、お寺が好きで、鎌倉も近くなったことだし、ふらっと行ってみたりする。そして仏像の前で手を合わせる。すーっと心とからだの力が抜け何かと繋がったようになる。もちろん、そのとき空っぽの状態になるわけだが、だからこそ色んなことが自分の中に飛び込んでくる。何年も思い出してない人の顔だったり、どこかで聞いたことのあるような囁きであったり、閉じた瞼の先にある仏様の顔であったり、或いは途端に強くなった風のつくる音だったり。とにかく、そこは無限の空間となる。

今、都会でも田舎でもいいのだが、お寺はどんな存在だろうか？ お葬式のときに行ったり、縁日のときにふらついたり、受験が何かでお守りをもらいに訪れたり、初詣で除夜の鐘を突かせてもらいにいったり、と特別なことがない限りは身近でないはずだ。自分のような人間は多数派ではないだろう。けども歴史を勉強したことがある人は、教科書の中ではとても身近であることは分かるだろう。それどころか徹夜をして必死に圧倒的数の名称を強引に暗記したりして試験に備えた人も多いだろう。これから察するに過去において長らく、お寺は人にとってその生活の肝腎な部分に存在していたようだ。しかもそれは比較的最近まで。

子供の頃よくお寺に行った。いや、よく行かされた。昭和天皇と同じ年に死んだ、母方のばあさんに。

ばあさんは、熊本の天草という島の本渡という小さな町に一人で住んでいた。とても優しくしてくれた。が、一つ、とても厳しくなる瞬間があった。それは、「本妙時に、お経ばあけてもらいに行ってこんかい。」との催促に面倒くさそうな表情を示した時だった。だから、仕方なくそれには従っていた。(いやあ、それにしてもいやだったなあ。ずっと、読経の間、

正座してなくてはならず、ほんと拷問だったな。)そしてそのお努めを果たし、帰宅した時、ばあさんは決まって「お利口さんやった。」と言ってとても嬉しそうな顔をしていた。

ばあさんにとってお寺とは何であったのかは綺麗な言葉では説明できない。が、何かとても大切なものであったのは今でも分かる。そしてそれは同時にとても普通のことであったことも。たぶん、そこでいるんなものと繋がっていたのだろう。目には見えないもうこの世に存在しない先祖の姿、まだこの世に存在しない子孫の姿などと。

目に直接は見えないがそれでも何かと繋がっていると思わせるもの。それは現在の社会ではテレビである。ニュースやドラマという、画面の中の映像を見て、憤怒したり、落胆したり、或いは歓喜したりして世の中のことをあだ、こうだ、と言ったりすることが我々にはよくあり、それでこの世との一体感を無意識のうちに覚えている。だから、みなさん、テレビを大切にしている。100年前には確実に仏壇や神棚があった、家庭内を中心となる空間には今はテレビがあるのだ。

でも、その役割は単純に置き換えていいものだろうか？ 答えはノーだと思う。そこには決定的な差がある。

テレビは all or nothing であり、そこではテレビと人、双方が直に混じりあうことなく一方通行のまま全てが完結してしまう一方で、お寺、またはその派出所である仏壇は決してそうではない。そこではお互いが共鳴しあう。どちらともなく影響しあう。そして一つになっている。

そう、やはり今世紀最大の発明品はテレビなのである。

そういえば、子供の時に、ばあさんにこう尋ねたことがある。「もう死んでしまった友達とか知り合いの人には、何ば今教えてやりたかね？」「テレビやるね。」って返ってきた。

Masami.H の

## #pragma speculate

### 『コンピュータの脳みそ』 第9回

# 前回の続き

流れ作業を更に高速化させるため、裏方連中が存在しています。今回はその裏方連中を紹介します。

;-//-----

その3：分岐予測

前回、「パイプライン」の働きで、ある仕事をこなしながら、次にどんな仕事をすればいいのか先に命令を読んでいるという話をしました。仕事の流れが一本道なら全く問題はないのですが、コンピュータの仕事の流れは一本道とは限りません。たとえば、コーヒーを入れるプログラムがあるとします。

- 1：ヤカンでお湯を沸かす
- 2：カップを出してくる
- 3：コーヒーの粉が足りているか調べる  
粉が足りなかったら、買い出しに出るプログラムへ移る  
粉が足りているなら、カップにコーヒーの粉を入れる
- 4：カップに砂糖を入れる  
～以下いろいろと続く～

さてこの時、前回紹介したパイプラインの機能により「コーヒーの粉が足りているか調べ」ている間に、脳みそは次の命令を読もうとします。読もうとしますが、コーヒーの粉が足りているかどうかまだ調べているところなので、次に買い出しプログラムへ移らなければならないのか、カップに粉を入れればいいのか、まだわかりません。次にどっちの命令を読めば

いいのか、コーヒーの粉が足りているかどうか調べ終わるまで待たなければならないため、無駄な時間が生じてしまいます。これを防ぐため、「多分こうだろう」という見込みを立てて、先に次の命令を読んでもいいです。例えば、「多分、コーヒーの粉は足りている」という見込みの場合は、一応、粉の残量は調べるけど、調べ終わる前に次の「コーヒーの粉を入れる」という命令を読んでおく・・・というように。

もちろん、見込みが外れた場合は「コーヒーの粉を入れる」命令があったことを一旦忘れて、買い出しに出るプログラムを読み直さなければならぬため、やはり無駄な時間が発生します。しかし、高確率で見込みが当たれば、あわよくば常に見込みが当たれば無駄な時間は発生しなくなります。これが裏方その1、「分岐予測」です。

;-//-----

その4：投機実行

実際にはあり得ない話でしょうが、先のコーヒーを入れるプログラムを2人がかりで実行すると想定して下さい(前回紹介したスーパースカラーのため)。この時、ひとりがコーヒーの粉の残りが足りるかどうか調べている間、もうひとりは待機していなければなりません。本当は次の仕事を実行したいのだけど、コーヒーの粉の残量があるかないかで、次にこなさなければならない仕事が変わってくる(粉を入れるか、買い出しに出るか)ので、先に進めないのです。これは時間の無駄です。

しかし、先の「分岐予測」があれば、はっきりとしたことはわからなくても「多分こうだろう」ということはわかります。例えば「多分コーヒーの粉は足りない」という予測が立っている場合、ひとりがコーヒーの粉の残量を調べている間、もうひとりは「足りなさそうだから買い出しに行くね」と、勝手に先へ行ってしまいます。場合によっては、命令の順番を入れ換えてしまって「コーヒーより先に砂糖入れても大丈夫だよ、それなら先に砂糖入れちゃうね」なんてことすらやってしまいます。これが裏方その2、「投機実行」です。

# ヤンヒポのクリスマス

前回は心神喪失に陥っており執筆もままならなかったヤンヒポであるが、未だにネガティブなままで、ペンをつかむと脳内細胞が細かい振幅をはじめそれぞれの結合を解きはじめ。早い話、小さい字を見ると眠くなるのだ。そんな具にもつかない話はさておき、21世紀を目前に控えた世情を観察しよう。

キリスト教国でのクリスマスはおのずと盛大に祝う。日本のクリスマスのように消費意欲を煽って、若者のツガイに接触の口実を与えるだけの物とは根本的に違うのだ。冷静に考えると、日本でも正月は割と厳粛に迎えるだろう。それと同じ事だ。しめ飾りがさしずめクリスマスツリーといった所なのだ。多分想像には容易いと思うがイルミネーションも派手だ。雪の降らないL.A.でのトレンドは白一色を五月雨式に屋根から垂らして、さも雪が積もっているようにデコレートしたものだ。これが東海岸だと黙っていても雪は降るので、色とりどりのイルミネーションを使い雪を照らす。やはり地域によってもそれぞれ特色が生まれるものなのだろう。

読者諸氏はサンタクロースが夫婦で歩いているのを見た事があるだろうか。真意の程はよく解らないが、L.A.で見るサンタは必ず夫婦で歩いている。残念ながら、夜景の苦手なデジカメでは姿を捉える事はできなかったが、あの格好をした夫婦が町の至る所を練り歩いているのだ。豪勢な時は聖歌隊も引き連れて例のクリスマス聖歌をソプラノで歌って歩くのだ。この辺がアジアのクリスマスと大きく雰囲気の違いがある所だ。余談だが、26日の朝にはクリスマスツリー専門のゴミ収集車が町を巡回して一斉に引き上げて行くのも米国ならではの光景だ。

先日、所要がありL.A.の南にある高級住宅地「ニューポート・ビーチ」



のある家に招かれた。東京でいうとさしずめ田園調布にあたる。その住宅地自体に入るエントランスにはハーバビュー・ヒルと書いた門があり、



正当な理由の無い者の進入にプレッシャーを与えている。実際、見慣れない輩がいると大変目立つ町なのだ。町の規模としては、光ヶ丘団地を想像してもらおう。ただ、建物は2階建て以上の住宅は建築できない事になっていて、大変閑静な住宅街なのだ。L.A.にしては、小さい子が道路でママゴトをしていても違和感が感じられなかった。そこに有る家のゲストルームに泊まる事になったのだが、別棟の2階が丸々ゲスト用になっていて、部屋のサイズは大体20畳ぐらい。その他にトイレとバスルームが完備されているのだが、なんとまあ豪華な作りだろうか。バスにはジャグジーも完備していて、東京でワンルーム10万払って暮らしている市民には目の毒だろう。当然ベッドもキングサイズのダブルなのだ。下手なホテルよりは数段豪華な事は言うまでもない。確かに、年齢を重ねた後はカリフォルニアの空の下でノンビリと暮すのも悪くないかもしれない。

クリスマスの直前渡日した筆者は、成田から新宿に降り立って少し驚いた。人の数と町のデコレーション自体の派手さは米国にも劣っていない。元々、新宿界隈はネオンが消えない町として有名であり、全体の明るさはラス・ベガスには及ばないまでもマンハッタンのタイムズ・スクエアよりは明るいのだ。そこに商用ライトが所狭しと輝いていて、人の密度もニューヨークのミッドタウンより多いかもしれない。ただ、米国と比べると根底に宗教的な物と商用、購買意欲をかき立てる為の物との明らかな隔たりを感じるのだ。元来日本はチョンマゲであり、厳かな雰囲気を楽しむとするはずだ。それが、欧米化に伴い、美味しいとこ取りがこうじてクリスチャンの割合が決して多いと言えないこの国に、商業目的で宗教儀式を導入した結果が違和感を招いているのだろう。ただ、日本の中で暮していると多分気がつく事は無いのだろう。ま、市民は死ぬまで気がつかなければ問題意識も生まれないので問題無いとも言えるのだが、....。

## 21世紀も、日本は危ない！

あなたの平穏な生活を脅かすストーカーを本場米国で培った最新の技術と装備を駆使して退治します。  
あなた一人で悩まないでください。

# ストーカー バスター

相談無料  
秘密厳守

防犯用品販売・  
防犯対策指導も  
致します。

produced by

P.D.Agency

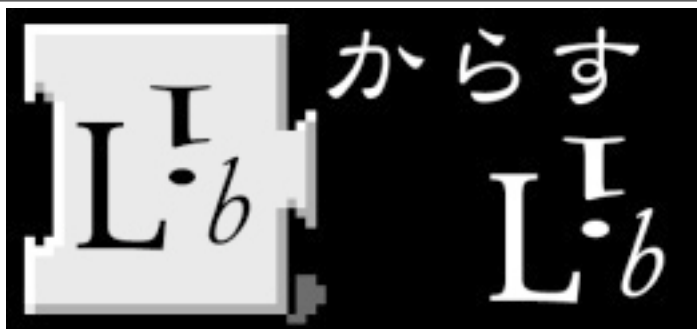
tora@pda.co.jp

1843 N. Cherokee AVE: APT. #216

Los Angeles: CA 90028, USA

voice : +1-310-493-1001

facsimile : +1-323-466-5645



## Tubular Bells

Mike Oldfield

VIRGIN : CDVX2001 1973年



怖い映画といったら、『エクソシスト』である。公開当時、まだ小さかったからかもしれないが、また、今となってはその内容も憶えていないが、とにかく恐かった。最近そのディレクターズ・カット版が公開されているので、興味のある人は観てみるといい。

で、この映画音楽に採用されたのが、チューブラーベルズである。作品は映画より前にできており、当時本人はまだ20歳。一人きりで作り上げたというから、なかなか凄い。

そんなわけで、私の頭の中ではこの曲が、かつては映画『エクソシスト』と連動し、転じて現在では、「怖い」という言葉のみと連動するのであった。実感、恐くも何ともないのだけれど。(望月)



## 『らんぼう』大沢在昌

光文社、2000年、ISBN4-334-07401-4



大沢と言えば「新宿鮫」が有名だろう。真田広之主演で映画化もされた。そんな刑事小説のエピソード集だ。新宿鮫の鮫島警部補はインテリ系の乱暴者だが、こちらのコンビ、イケとウラは普通の乱暴者である。それぞれの話がテンポ良く歯切れが良いので軽い気持ちで読めば良い。小説ではあるが劇画タッチなので、あまり考えなくて済む。飛行機の中で煮詰まった状態で読むには程よいのだ。こういう話を読むと人類に警察組織が生まれてからというもの、正義が勝つ的な話で、なおかつ主人公がはみ出しのコンビという図式の話がいかに多い事か。現代人の憧れなのかもしれない。なにせ、くどいようだが軽い気持ちでマンガに近い感覚で読める本というのは時として大変役に立つものだ。

(小張真造)



## CUBE

1997年公開(カナダ)

DVD・ビデオ：ポニーキャニオン

監督：ヴィンチェンゾ・ナタリ

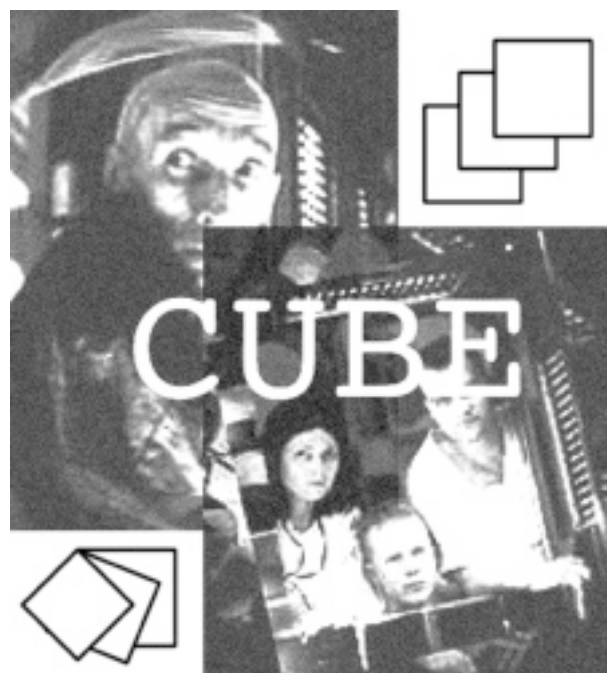
出演：モーリス・ディーン・ウィン、ニコール・デポア、デヴィッド・ヒューレット、ニッキー・グァダーニ、アンドリュー・ミラー、ウェイン・ロブソン、ジュリアン・リッチングス



CUBEと言っても、アップル社の新製品ではない。弱冠28歳の監督による、実にわざとらしい映画である。気の利いた学生映画ってレベルだ、と言えばそれまでなのかもしれないが、私はこの作品を支持しよう。

今どきなかなか出会えないような古くさい「不条理」なシチュエーションに置かれた登場人物たち。各部屋が立方体(CUBE)からなる巨大な立方体の建物の中。脱出しようと右往左往するものの、そこはそれ、次々に問題が発生する。説明を廃したセットの中で、時として過剰に説明的な科白、演技で物語を進めてゆく。これはアメリカでもヨーロッパでもなく、ましてや日本の映画ではないのである。いやいや、そもそも商業映画として成立しているのかどうかさえ疑わしい。

わかりやすい役割分担と性格の割り当て、見え透いた人間模様。あほかいな、と思わなくもないが、結局は、ノン・ストップで見続けてしまった私である。最高だとは言わないが、最高になる可能性を秘めていたのにな、とは思ふ。この監督が次の作品を発表したら是非見てみたいと待っているのだけれど、チャンスはなかなかやっこないようである。(全太)





# 世界をくいつくせ!

前回、×××の為、唐突な終わり方をして、かなり反省。しかも涼しいとは、なにがなんでも違う季節になってしまいました。連載中三回も同じ国のこと書くのは止めようと固く心に誓っていたのに。ああ。でも、こうなったら開き直り。みなさんの暖かい心に抱かれながら...書こ書こ。前回は料理の肉編まででしたので先ずつづきを...

## 《シーフード》

トム・サオ・ティット・ロン 海老と豚肉の炒め(大蒜・生姜を使いニョクマムで調味します。中華料理の影響がみえますね)

カー・サオ・タブ・カム 揚げ魚の野菜あんかけ(野菜あんもカラッと揚げた衣も、ふわっとした魚身も美味しい!よくある料理のベトナム版ですね)

ムク・ドイ・ティット イカの挽肉詰め(イカの胴にひき肉や木茸を詰めてから素揚げした料理。ミントと一緒にライスペーパーで包んで食べる。本来はスターフルーツや未熟バナナも一緒にですが、店で食べたら省いた。ベトナム定番料理です)

チャオ・トム 海老すり身団子(砂糖きびの茎を芯にすり身を包み揚げた料理。海老団子はベトナムではお祝い事に欠かせないそう)

ムク・チエン・ポツ イカの衣揚げ(シンプルなイカの揚げ物で、大蒜たれで食べると美味しい)

カー・ハップ 蒸し魚(シンプルな料理ですが、大蒜・生姜・ネギ・木茸などと蒸すので、臭みはなく、逆に旨さ倍増。仕上げにのせる香菜も減茶苦茶合います)

## 《野菜料理・卵料理》

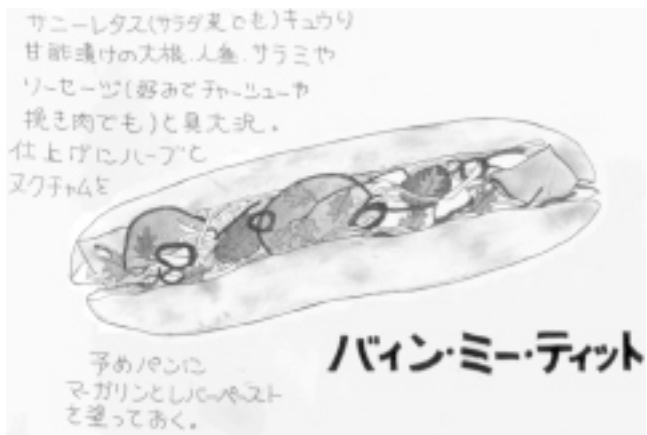
ホンカイ・チエン・ポツ カリフラワーの衣揚げ(カリフラワーがホクホクしていて美味しい。チリソースをつけて食べます)

ゴイ・カー・ティム 揚げナスの冷静(生姜風味のタレで和えてあります。前菜にぴったり)

ザオ・ムオン・サオ・トイ 空心菜の大蒜炒め(最初に豚脂で炒めて旨みを。空心菜はベトナム料理ではよく使われる野菜でシャキシャキしています)

チャ・クア ベトナム風蟹玉(蟹のほか春雨・ネギ・木茸なども入りお勧め)

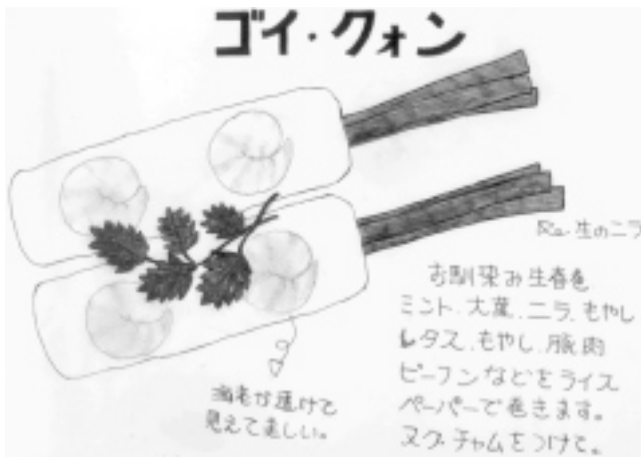
ルン・チエン・ティット 豚挽き入り卵焼き(平らな卵焼きです。黄



身と白身を分けて作りなんと表と裏が色違い。  
チャー・チュン 五目入り卵の蒸し物(ベトナム料理店でもお馴染みの料理で豚・春雨・玉ねぎ・木茸などと卵を合わせ蒸したものを。菱形に切った姿が美しい~)

## 《鍋料理》

ティット・ポー・ニュン・ザムベトナム風しゃぶしゃぶ(トマト・大蒜などの入った甘酸っぱいスープで煮て、セロリ・胡瓜・ミントと一緒に肉をライスペーパーで包みチリソースで)ラオ・ティア・ガイ 魚貝の寄せ鍋(レモングラスと唐辛子がきいたスープで煮る、というよりもしゃぶしゃぶの要領で食べるのがお勧めですが、もちろん新鮮なもので。最後にラーメンを入れます)



## 《麺・御飯》

フォー・サオ 焼きうどん(うどんといってもフォー[米麺]の料理で、具には海老・豚・野菜などが。結構シンプルな味付けで食べやすい)コム・サーシウ 海老とチャー

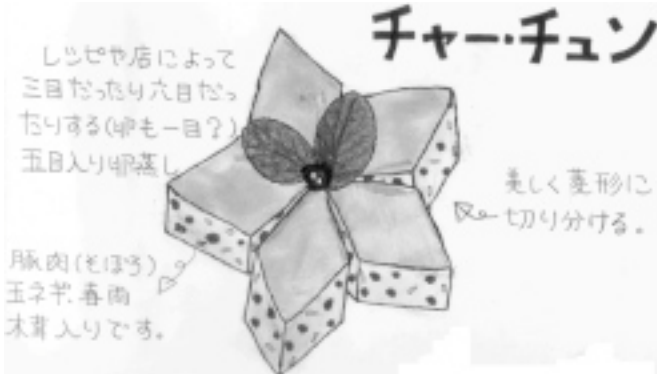
シューの炒飯 ニョクマムで味付けたシンプルな炒飯)コム・サオ レバー入り炒飯(鶏レバー・高菜などの漬物・玉ねぎで作った炒飯に、トマト・マッシュルーム・空心菜を炒めたものをのせる、少し変わった料理で、好き嫌いがあるかもしれません)コム・ディア 牛肉とパイナップル炒めのせ御飯(甘酸っぱいけれど御飯にあります。店では御飯料理でなく単品になっている事が多い)コム・スウン スペアリブのせ御飯(レモングラス、八角[スターアニス]・唐辛子を入れた調味料につけ込み焼いた肉をもせたもの。野菜もたっぷり添えてあります)ソイ・ダウ・サイン 緑豆のおこわ(もち米を、春雨の原料でもある緑豆と塩で炊いたもの)

## 《カレー》

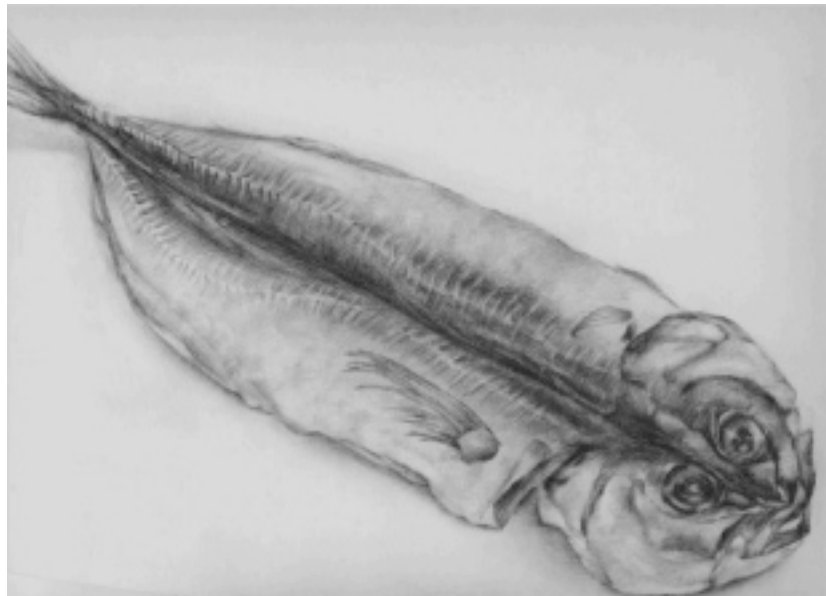
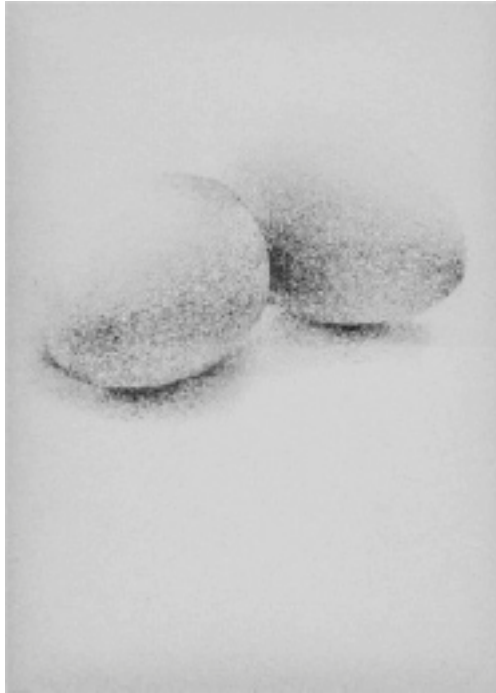
カリ・ガー 鶏とサツマイモのカレー(さらっとしていて、ココナツミルクやレモングラスも使うので、タイのカレーに似ていますが、辛くはありません。好みでレモンや唐辛子をかける)

本当に極一部ですがどうでしょうか?少しは参考になったら良いのですが(因みに、ここに書いたものは、たまたま店で食べたものやレシピを見て自分で作ったものでして、調味や具材・料理名などは店や調理人や出身地によって違いはあると思います)

ああ、なんだか料理の事書いてたら...近頃体調壊してチョット痩せたものだから...と勢いでダイエットし始めてしまった私ったら...減茶苦茶ベトナム料理渴望状態~!うう。ところで、ベトナム人はフォークで料理



## Rei's Gallery



## 『あじ・たまご』

世紀末という言葉聞いた時に連想された言葉が、崩壊とか滅亡なんていうやたら「死ぬ」って言葉で、またそういう表現あふれていた。なんだか人類にとって悪い物を育ててきたって感じがしてもう飽き飽きだ。

そろそろ、新しい時代が変わる(この新聞を読む頃は変わっているかも)ってことで「死ぬ」じゃなくて「生む」はどうだろう？

そして、育てる。これでいこう！2001年になったところで今日明日に何もないうけど、21世紀が始まったぞーっていうテンションが切っ掛けで新しい表現がどんどん生まれたいいな。

そんなイメージの象徴を、あじの干物とたまごにしてみた。

# これを日本語で言えますか？

## そうだったのか！ニュース英語

などと言うタイトルの本が手もとにある。はて？たしか、『これを英語で言えますか？』っていうベストセラーがあったように思うが、こちらの方

は、どうやらいろいろあるカタカナ外来語の解説本のようなものらしい。ページを繰ってみる。

ボーナス。

懐に寒風吹きすさぶ師走。年末ジャンボ？たしかにその手もあるが、なにはともあれ、会社員でない小生にとって、それはなんとも羨ましいものである。

## ボーナス

bonus

「特別手当」= 正規の給与とは別に与えられる賞与金。思いがけない贈り物。おまけ。

英語の bonus は広く「割増金、奨励金、賞与金」の意で、日本のサラリーマンがもらう「年末、期末の賞与」は、正確にはそれぞれ mid-summer bonus (夏季賞与) year-end bonus (年末賞与) となる。

また、「おまけ」の意で使われる場合は、bonus sale (おまけつきセール) bonus stock (おまけとして贈られる株式) など。

語源は同じつづりのラテン語 bonus だが、その意味は「よい、善良な(もの)」。

Would you give me another 10 thousand yen bonus, boss?

「ボス、もう1万円ボーナス上積みしていただけませんか」

### 消えたボーナス

1968年12月10日朝、日本信託銀行国分寺支店を出た現金輸送車は、府中刑務所横にさしかかったところで、突然現れた白バイから停止命令を受けた。白いヘルメットをかぶった警官は、「この車に爆薬が仕掛けてある、との連絡が入ったので調べさせてもらう」と言って、乗っていた4人を車から降ろした。9時25分ごろのことである。

警官は車の下に潜り込んで慎重に爆弾を探しながら、4人には、危険だからもっと遠くに下がっているようにと指示を出した。やがて警官は爆弾を発見し、絶叫。

「あつた！ボンネットのところだ！爆発するぞ！逃げろ！」

確かにボンネットからは赤い火が見えた。そのスキだった。警官のふりをしていただけの男は、落ち着き払った態度で運転席に乗り込み、車を発進させてそのまま立ち去った。わずか数分の出来事だった。

輸送車には、アルミ製の箱3つに2億9430万7500円が積まれていた。その金は、東芝府中工場でその日の午後支払うことになっていた従業員4600人分のボーナスだった。

被害額は当時で史上最高。負傷者なし、犯行時間3分の鮮やかかつ大胆な手口にマスコミも色めき立ち、

「ギャング映画そのまま」

「欧米なみの手口」

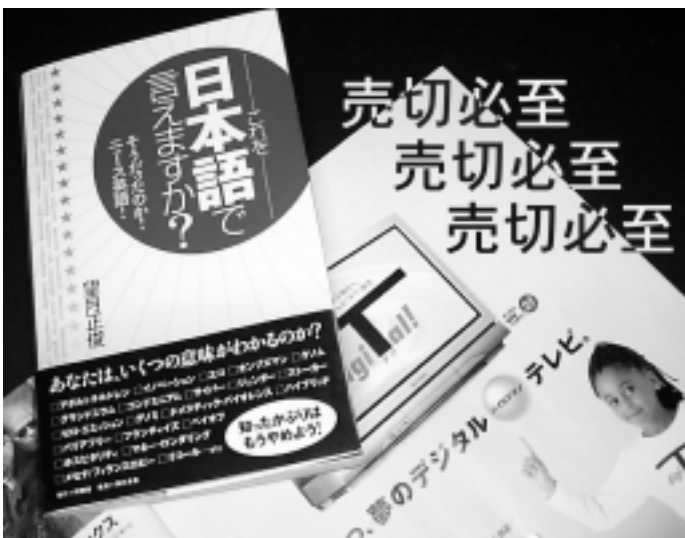
と一斉に書き立てた。警察は周辺地域を丹念に回る聞き込み作戦を開始したが、成果は上がらず、犯人の行方は杳として知れなかった。

警察の努力もむなしく、犯人はなかなか捕まらない中、犯人像をめぐってさまざまな憶測が飛び交い始めた。中には、この事件は警察が仕組んだものだという突拍子もないものまであった。折しも時は学園紛争の真ただ中だったが、警察の一斉聞き込み作戦は、学生運動の活動家を一網打尽にするためだと、そんな噂だった。

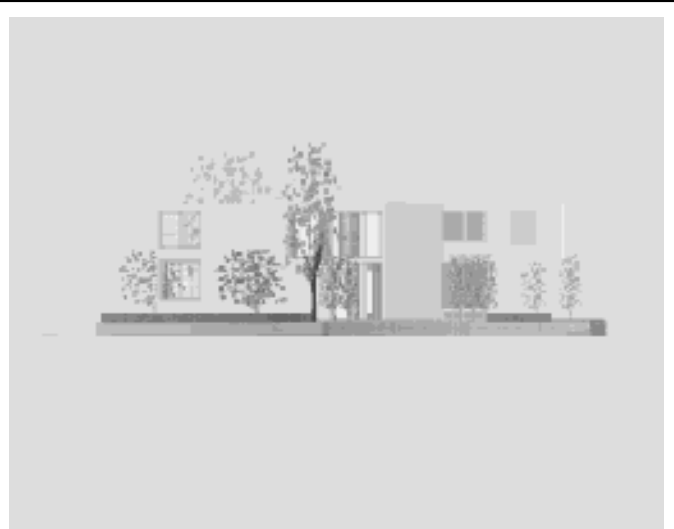
そのような根も葉もない噂が浮かんで消えていったが、その間も警察は犯人の逃走を許し、ついに75年には刑事事件としての時効が成立。88年には民法上の時効も成立し、「三億円事件」は結局未解決のままに終わった。

世は何かと世紀末で、20世紀を総括しようという動きが盛んだが、「～事件」といったら、私などは、真っ先に思い浮かぶのが、「三億円事件」なのであった。(望月)

『これを日本語で言えますか？  
そうだったのか！ニュース英語！』  
望月正俊



発行 = 同朋舎 発売 = 角川書店 ISBN4-8104-2658-0



Ken-ichi Shinozaki, architect

4-3-44-1 Narita-higashi, Suginami-ku,  
Tokyo 166-0015,  
Voice : +81-3-3220-0644  
Facsimile : +81-3-3220-0640;  
e-mail: geta-s@t3.rim.or.jp

篠崎健一アトリエ



# 世界をくいつくせ!

(5面から続く)

を切りながらスプーンに上手くのせて食べる。それはもう本当に目にもとまらぬ速さで(ハイ、大袈裟です)。切り、のせ、口に運ぶという動作を、殆ど両手同時にやってる人見ましたし(ただたんに急いでいたのかな...?) 真似してみたら通ぶれる...じゃなくて威嚇できるかもしれないです(誰に?)。でも、この食べ方って日本ではお行儀の悪い食べ方なんですよね。最初から上手い私って...まさかっ。

それにしても、本当にベトナム料理ってハーブの存在が大きい(主に、ニラ・香菜・ミント・バジル・ドクダミ・大葉など)。そして、忘れてはならないのがニョクナム。小魚を塩でつけ込み発酵させた際出る汁ですが、これなくしてはベトナム料理は語れないのです。日本の醤油のような存在でしょうか。各家庭で作るのはなかなか難しいので、やはり市販の物を買う事が一般的。けれど、日本の醤油と同じようにメーカーによって味・塩分・旨みなども違うので、各家庭(個人でも)これじゃなきゃ、と決まったニョクナムしか受けつけない人も多いそうです。日本でも市販されているニョクナムはいくつかありますが、ナルホドが舐めてみれば直ぐわかるほど、塩分・旨みがそれぞれ違います(不味いのがあるの...)

ちょっと話し逸れますが、アオザイってご存知ですか? ベトナム女性の民族衣装。少しチャイナドレスに上半身似てるかな? でも、チャイナドレスのままな色っぽさもいいけれど、アオザイは下にはくのはパンツ(ズボンね)。上に着るのも丈が長いし、なんだつまんない!(って?) ...とおもいきや、上着のウエストのサイドにスリットがありまして、ちらちらと横からみえるんですよ(チョコットですが)。不謹慎とは思いつつもあー素敵! 上品なお色気で憧れのひとつです。それから、憧れというのではないかもしれないけれど、小舟で繰り出す船上マーケット(主に野菜フルーツなどの様々な作物を売ってるそう)。沿岸に暮らす水上生活者の人々は、もしかしたらナカナカ大変な暮らしなのかも知れないけれど、日本でもあったら凄く面白そうだなって思ったりします...って、今現実見えてやしませんか...。このままじゃ終われないベトナム編。第4回になったりしたら、ドウニモコウニモ状態になってしまいそうなので適度に軌道修正。

ベトナム料理はこういうものと言いで定義つけるのは難しい。私の勉強不足もありますが、やはり、幾度にもわたり支配された歴史に理由はあると思います。独自の食文化を守りつづけてながらも、その長い歴史の中で影響を受けた、例えばフランスの洗練されたところや中国の料理の手法など。けれど、要らないものはきちんと要らなく、完全私的に頭の悪い言い方しまえば「もうっ! いいとこどい~」でしょうか。もちろん影響などみられない、ベトナム独自の料理の美味しさは言うまでもない。でも、言っちゃいます。「美味しい~」本当にお勧めですよ! 完(かな?)

がどんな宗教の看板を携えていようともおかま  
いなしで、十二分利用可能なイベントなのだ、  
とも考えられる。

そもそも、世紀や千年紀などというものは、極  
めて恣意的なものではない。嘘だと思つたら、  
猫に尋ねてみたまえ。自然界において、そんな物  
差しが何の意味を持つというのだろう。百年千年  
といった大きな尺ばかりでなく、そもそも、年  
という概念だとして恣意的な区分に過ぎない。大  
晦日、年が明ける直前にカウントダウンが始ま  
り、新年を迎えた途端、乾杯したり、口々におも  
でとつと声を掛け合う。そんな経験のある人もそ  
うそう少くはないだろう。一年の最後の十秒  
を一所懸命数えたところで、四年に一度は閏年  
があるわけだし、見過ごされがちだが閏秒など  
というものさもある。普通の科学的根拠に  
基づいて成立しているなどとはおよそ言い難い。  
そう考へてゆくと、月日も秒も、極論すれ  
ば、御都合主義の利便のためのものに過ぎない、  
と言えよう。嘘だと思つたら、猫に尋ねてみた

え。腕時計をしたり、部屋にカレンダーを飾ってい  
る猫を見かけたことがあるだろうか。

批判めかした物言いをしてきたけれど、そいつ  
う恣意的な区分が全く無意味なのかというところ  
なことはない。待ち合わせをするのにも、女子プロ  
レスを録画するのにも、約束された時間が必要で  
ある。また、年頭に気分一新、今年は何かに  
取り組もう、こんな風に生きていこう、などと  
決心するのは悪いことではない。結局のところ、  
踊らされるのは困るけれど、自分の都合に合わ  
せて踊るのなら、便利な道具のひとつなのである。  
暦法や時法というものは、

念の為、我が家の猫に尋ねてみたところ、返事は  
「ニヤイン」。いつの間にか彼女はドイツ語を覚え  
たようである。推察するに、ニン(nin)とヤ  
(y)を合成した語であるよう。ノーでありイエス  
であり、つまるところ、そんなことはどうだってい  
んだよ」といふことなのだろう。至極御尤も。

(全六)

## 『コンピュータの脳みそ』

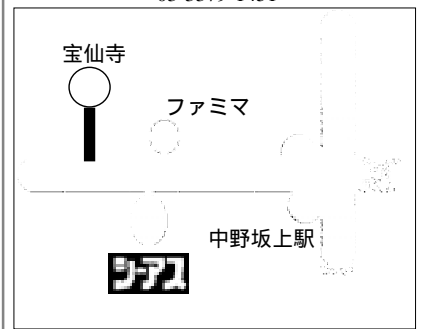
(2面から続く)

ところで、世の中、順番通りにやらないといけないことって多いですよ。常識で考えればコーヒーの粉と砂糖の粉はどっちを先に入れても問題はありますが、仮にコーヒーの粉の前に砂糖を入れてはいけないということになります。ここで「多分コーヒーは足りている」という予測が外れて、砂糖を入れてしまった後に「あ、やっぱりコーヒー無かったわ」ということになったらどうなるでしょう。カップに入れた砂糖を洗い流してから、改めてコーヒーの粉を入れる...というような余計な仕事が増えてしまい、「先に砂糖を入れないで待っている」時よりも多くの時間の無駄になります。投機実行は、当たり率の多い分岐予測に支えられて初めてその力を発揮する裏方です。

1クラス4人までの少人数制学習塾



中野区本町2-50-12 ドエル中野201号  
03-3379-1451



編集後記  
からす新聞第三号、無事、発行できまし  
た。

新聞に限らず、これから新企画目白押しな  
ので、みなさんの御協力をお願いいたします。  
御意見・御要望をぜひお寄せ下さい。  
次号発行予定日は二〇〇一年一月二十五日  
です。編集協力者、特派員記者、及び、投稿を熱  
烈にお待ちしております。

来社見学を御希望の方は左記のところへ。  
丸ノ内線新中野駅 徒歩〇分

